

目的 前回において、ダイズもやしのビタミンB₁について報告したが、今回はビタミンCについて、D.M.P法により定量分析をおこない、更に、組織化学的研究を併せおこなって、成長過程におけるビタミンCの変化および糖質との関係について検討した。

方法 試料は、北海道産のダイズを実験室で発芽させてもやしを作り、子葉と茎とにわけて分析をおこない、また、組織化学的のためには、細片として、常法により、固定、染色をおこない、光学顕微鏡および偏光顕微鏡下で検鏡した。

結果 ビタミンCの分析結果によれば、生育とともに子葉も茎も増加の傾向がみられた。また、その分布状態は、子葉においては、臍の部分を中心とした細胞および、維管束部に多く、茎においては、皮部、尖端、毛根部に多くみられた。

日を経るにしたがい、子葉の維管束を中心とする部分にビタミンCの分布が減ずることが検鏡された。糖質を偏光顕微鏡下でみた結果によると、発芽後ノ日経過のものはデンプン粒は少ないが、日を経るにしたがい増加の傾向がみられた。